

豚レンサ球菌症



～豚レンサ球菌症とは～

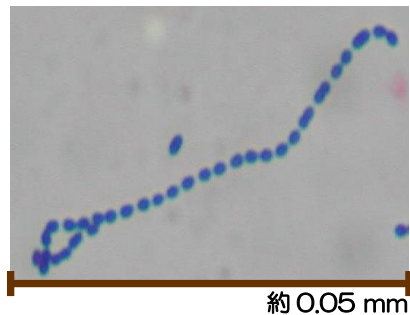
豚レンサ球菌症とは、**レンサ球菌**と呼ばれる数種の菌に豚が感染することで起こる病気です。この感染症に関係する菌のほとんどは**健康な豚が保有**しています。

2005年中国で豚のレンサ球菌症集団発生と関連して約200人が感染し、その内38人が死亡する事件が起こりました（※）。

～食肉検査では～

生体検査により敗血症などが発見された場合は、と殺禁止となります。また内臓検査で疑われた場合は、精密検査等を行い、その結果によっては全部廃棄となります。

原因 豚の抵抗力が低下した時に発病する場合や、皮膚等の創傷などを通じて発病することがあります。また保菌している導入豚により排出され、他の豚に感染し発症することも知られています。



レンサ球菌

症状 髄膜炎、敗血症、関節炎、心内膜炎など様々な症状が現れます。初期症状としては発熱、食欲減退、運動失調などの神経症状や関節の腫れなどです。
心内膜炎の場合はほとんど症状を示しません。

予防・対策 密飼いを避けて、適正な換気とストレスを与えない飼育管理を心掛ける必要があります。本菌は、消毒薬に対して感受性が高く、一般的な消毒薬で十分に死滅するので日常の消毒が有効です。
また、ペニシリン系薬剤の投与により発病を抑制することが出来ます。

※日本でも豚レンサ球菌症に関係した菌による、ヒトの報告があります。いずれも豚に接触する機会の多い人が感染しています。2005年に中国で起こった集団発生は初であり、通常は散発的に発生します。豚を扱う場合にはできるだけ手袋等を着用し、作業後は**手洗い**と**消毒**をしましょう。

リーフレットの内容に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

北海道東藻琴食肉衛生検査所 TEL 0152-66-2001 FAX 0152-66-3576

E-Mail : abashiriho.higashi1@pref.hokkaido.lg.jp

(迷惑メール防止のため「@」を全角にしています。メールを送る際は、半角に置き換えてください)